

タイトル	<h1>主題休日の過ごし方の違い</h1> <h2>——カナダ留学での経験を踏まえて——</h2>		
所属	中京大学現代社会学部 岡部ゼミ	氏名	三浦 友華

1 研究背景

日本の「休み」の価値観と違う?

- カナダの人は休日こそ家で過ごしたり、家族との時間を大切にしている印象
- 祝日や誰かの誕生日等の日には家族と過ごす習慣
- 日曜日は休日という考えから閉まっているお店も多々

人びとは休日をどのように過ごしているのだろうか?

2 調査方法

①文献調査

- 歴史・文化・宗教から「休み」を調べた
- 「休み」と相反する「労働」や、「子育て」から調べた

②フィールドワーク
(カナダ留学の中で)
2019年8月30日～12月21日

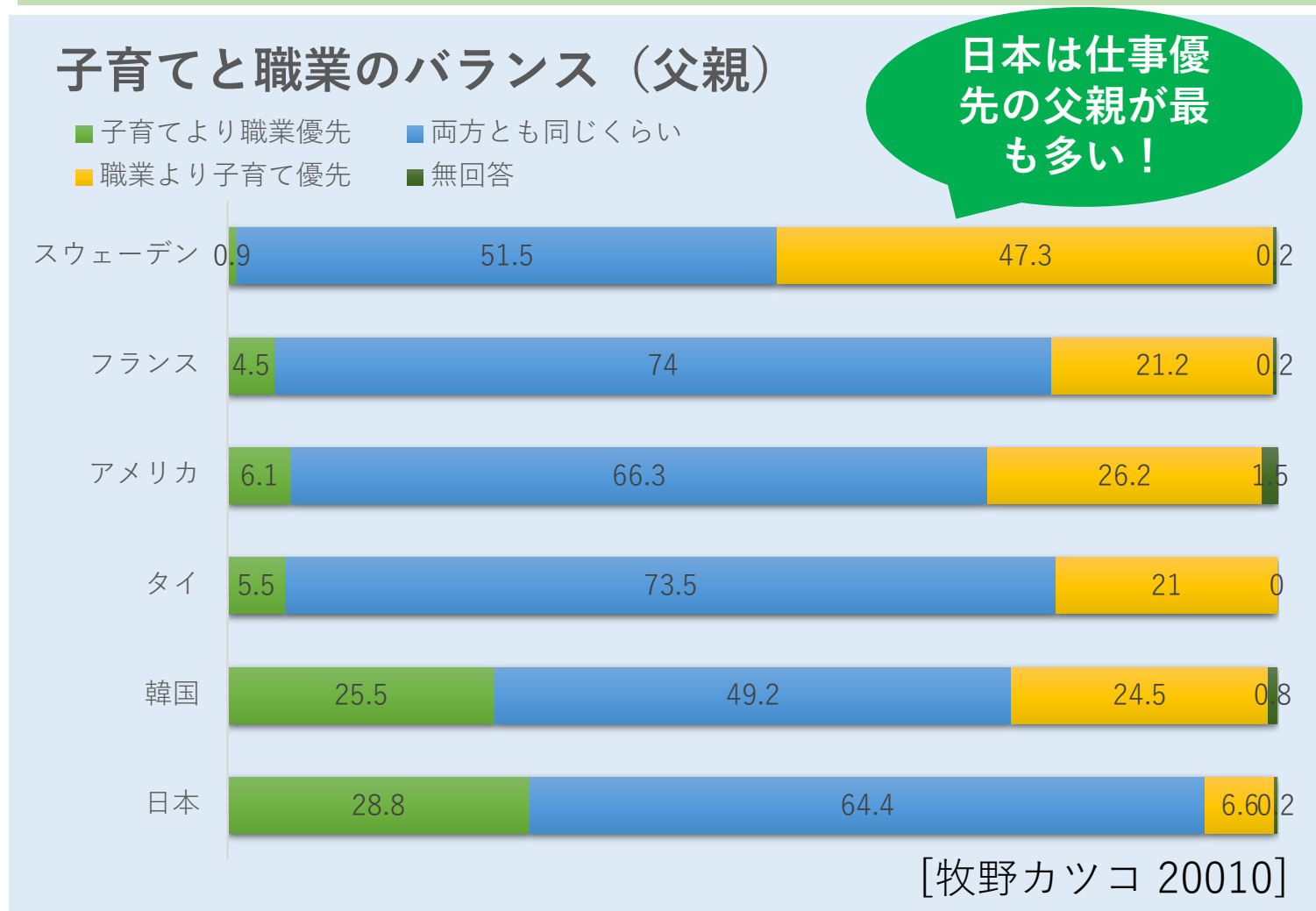
3 調査結果

- ユダヤ教・キリスト教は現在の世界の祝祭日の主要な役割を持つ [アンソニー・F・アヴェニ 2006]
- 祝祭日は約5000年前に作られ、社会の変化と共に変容してきた [アンソニー・F・アヴェニ 2006]
- アラブではイスラム教・キリスト教の祝日が休み
→自分の宗教に合わせて休む [世界日報 2017]
- カトリック教徒にとって日曜日は安息日
→労働を休んで神に祈りを捧げる、家族・親族と食事を共にする [宇田川妙子 2008]

しかし 若者の価値観の変化もあり「休みの日」のあり方も変化している

4 フィールドワーク

- 日曜日はショッピングモールなどのお店は短縮営業 (12-17時)
- 毎週日曜日は朝10時から教会でのミサに参加
- 土日祝日休み且つ残業もないファザーの仕事
- ファザーは9-17時で勤務
- 大学の先生も授業終了後すぐ帰宅 (私の担当教員は2人の子供を持つ 家事は彼の担当)
- 男性の育児参加率が高い
- 誕生日や記念日・祝日は必ず家族でお祝い



カナダのある家族の事例 留学時のホストファミリー

- 居住: ノヴァスコシア州 ハリファックス
- 家族構成: 5人家族 (ファザー、マザー、5歳、2歳、0歳の子供)
- 職業: ファザー→積算士
マザー→教師 (育児休暇中)
- 宗教: キリスト教

日曜日のミサやサンクスギビングやハロウィーン、クリスマスの祝日はキリスト教に基づく過ごし方

休みの日は家庭で過ごす

5 まとめ・考察

- 現在の祝祭日は変化し続ける社会と共に変容してきた
- 宗教との関りが深い
- 定時帰宅当たり前のカナダ社会と残業有の日本では家庭で過ごす時間に差があるだろう

参考文献

アンソニー・F・アヴェニ ヨーロッパ祝祭日の謎を解く (原題The Book of the Year : A Brief of Our Seasonal Holidays) 創元社 2006年12月20日

牧野カツコ 国際比較にみる 世界の家族と子育て ミネルヴァ書房 2010年4月20日

世界日報 地球だより 2017年9月7日

宇田川妙子 異文化を学ぶ 労働と宗教5-日曜日は安息日!?- 国立民族学博物館 2008年4月30日